

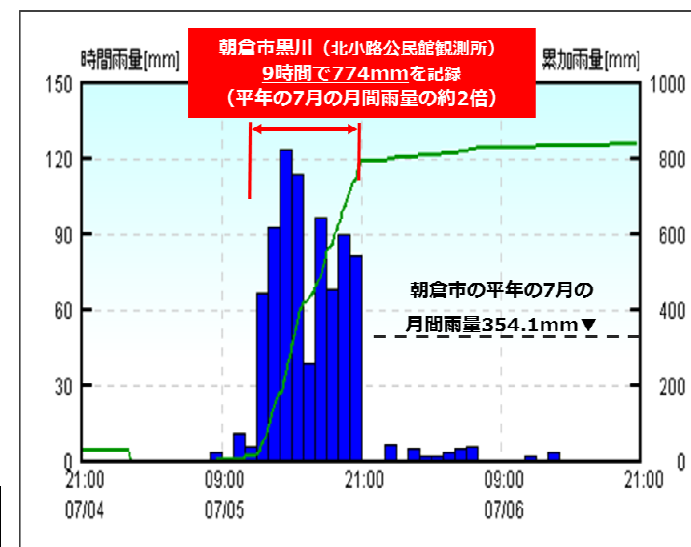
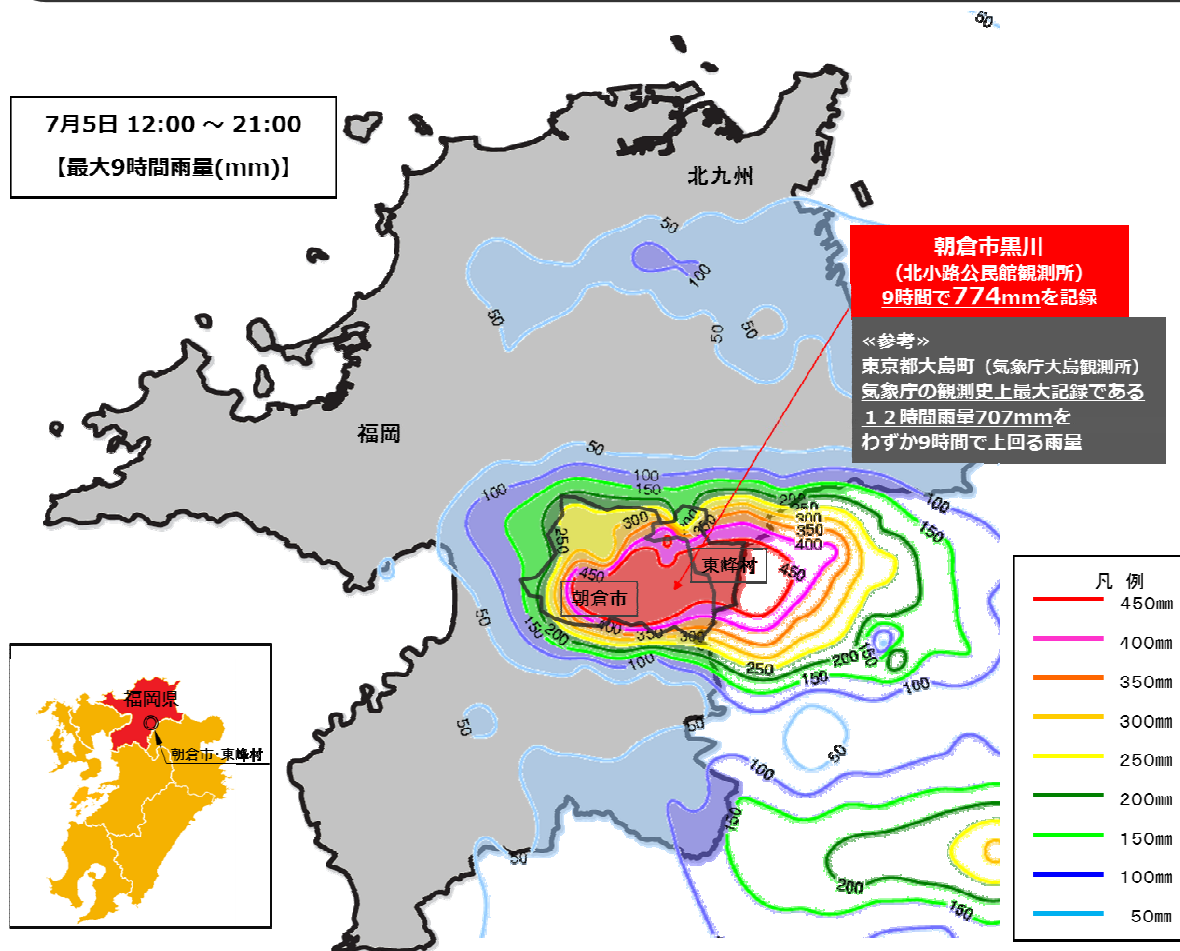
平成29年7月 九州北部豪雨の報告について



福岡県

平成29年7月九州北部豪雨【降雨状況】

- 福岡県の朝倉市、東峰村を中心としたエリアにおいて、**わずか9時間で774mmという、短時間に記録的豪雨を観測**
 <福岡県観測:朝倉市黒川(北小路公民館観測所)7月5日12時から21時>
 - ⇒ **観測史上最大の記録である12時間雨量707mmを上回る雨量**<気象庁観測:東京都(大島観測所)平成25年10月16日>
 - ⇒ **朝倉市の7月平均月間雨量の2倍を超える雨量**



	今回の豪雨	九州北部豪雨※ (平成24年7月)
雨量	774mm(9hr)	681mm(72hr)
平均雨量	86mm/h	9mm/h
最大時間雨量	124mm/h	94mm/h

※ H24.7.11~14 八女市黒木観測所

平成29年7月九州北部豪雨【被害状況】



- 福岡県における死者行方不明者39名のうち、朝倉市、東峰村における死者行方不明者は38名
- 家屋被害のうち、全壊及び半壊した家屋は1,104件、床上及び床下浸水は608件 <平成29年12月28日 時点>
- 公共施設被害額は約1,100億円で、平成24年九州北部豪雨による被害額の3倍を超え戦後最大規模
特に、朝倉市管理施設(約17倍)、東峰村管理施設(約12倍)での被害が著しい <平成29年8月20日 時点>

○ 主な被害状況

区分	人数(件数)	内 訳
死者行方不明者	39名	○死者37名 (うち、朝倉市33名、東峰村3名、その他1名) ○行方不明者2名 (朝倉市2名)
家屋被害	2,501件	【住家】 ○全壊270件 (朝倉市243件、東峰村26件、その他1件) ○半壊834件 (朝倉市794件、東峰村37件、その他3件) ○一部損壊39件 (東峰村8件、その他31件) ○床上22件 (東峰村12件、その他10件) ○床下586件 (朝倉市421件、東峰村68件、その他97件) 【非住家】 ○その他750件 (朝倉市731件、東峰村7件、その他12件)

※ 平成29年12月28日時点把握分

○ 避難状況

区分	人数	内 訳
実避難者	0名	○朝倉市:11月25日避難所閉鎖 (最大時:1,204名が避難) ○東峰村:8月19日避難所閉鎖 (最大時:486名が避難)

※ 平成29年12月25日時点把握分

○ 公共施設被害状況

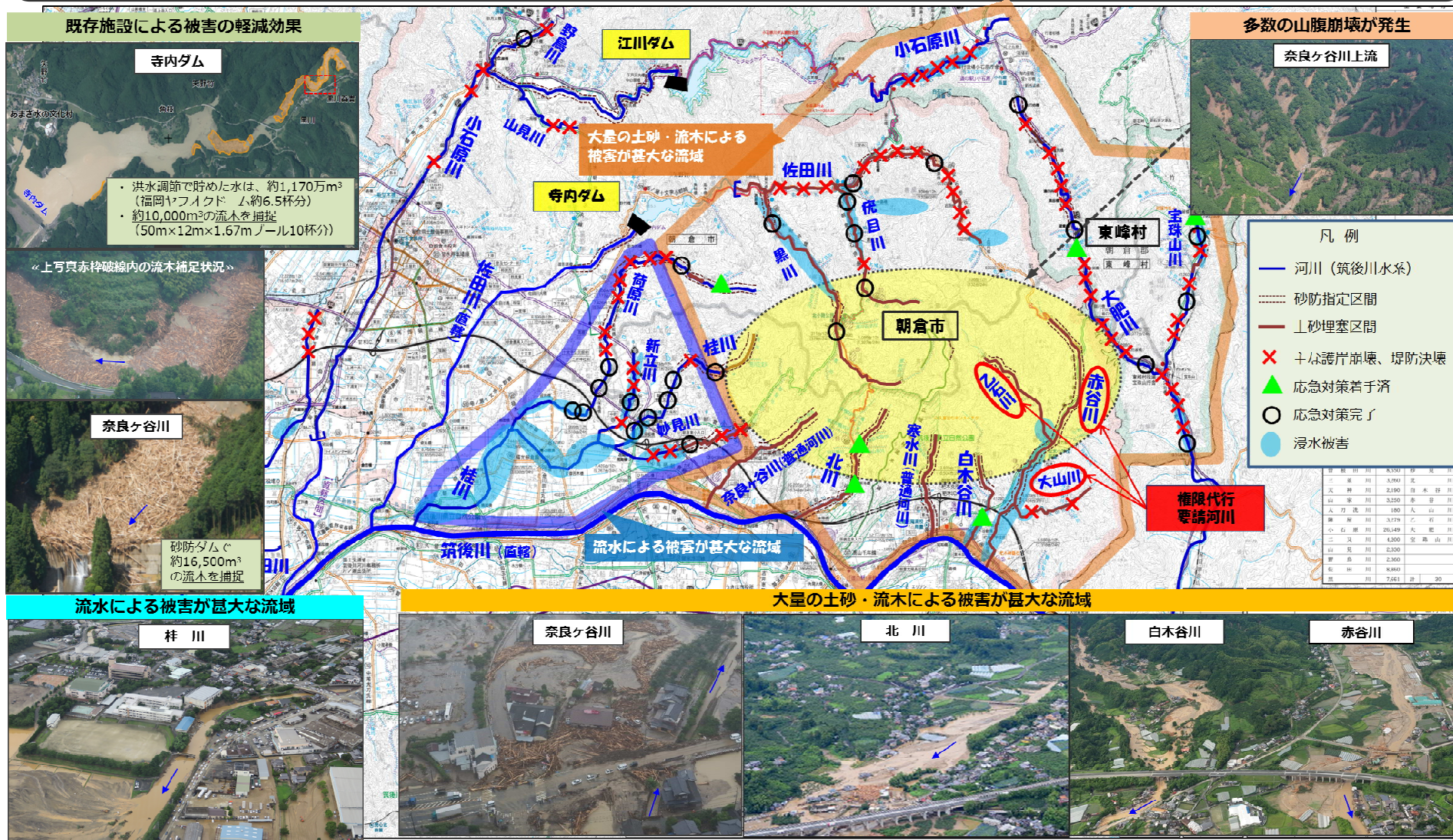
		平成29年7月九州北部豪雨	《参考》平成24年7月九州北部豪雨	平成29年(被害額) / 平成24年(被害額)
		被害額	被害額	
県	道路	318 億円	54 億円	6 倍
	河川	443 億円	113 億円	4 倍
	砂防・急傾斜	161 億円	1 億円	161 倍
	水道			—
	その他	1 億円	5 億円	0 倍
	計	923 億円	173 億円	5 倍
市町村	道路	57 億円	65 億円	
	河川	102 億円	100 億円	
	砂防・急傾斜			うち
	水道	17 億円	6 億円	朝倉市被害額 135億円(17倍) 東峰村被害額 28億円(12倍)
	その他	1 億円	1 億円	
	計	177 億円	172 億円	
合計	道路	375 億円	119 億円	3 倍
	河川	545 億円	212 億円	3 倍
	砂防・急傾斜	161 億円	1 億円	161 倍
	水道	17 億円	6 億円	3 倍
	その他	1 億円	7 億円	0 倍
	計	1,100 億円	345 億円	3 倍

※ 平成29年8月20日時点把握分

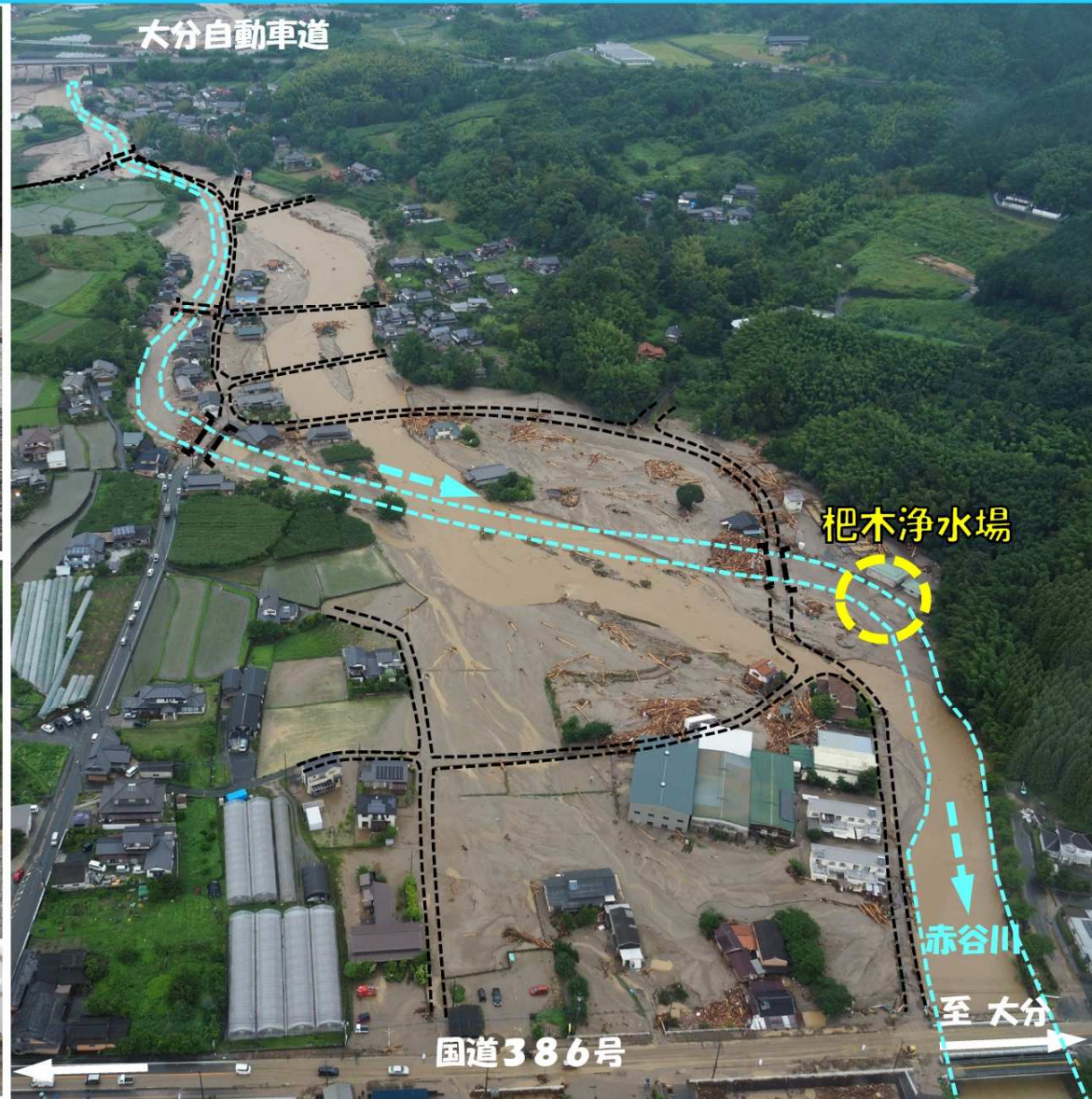
※ 四捨五入の関係で各項目と合計額が合わないことがある

平成29年7月九州北部豪雨【被害の特徴】

- 記録的豪雨(9時間で774mm)により、山間部で多数の山腹崩壊が発生
- 河川の氾濫に加えて、大量の土砂・流木が広範囲に流出するなど、これまでに例のない甚大な被害が発生



一級河川 赤谷川 朝倉市杷木林田（鶴園橋付近）【被災の状況】



一級河川 赤谷川 久保垣橋周辺【被災直後の状況】



復旧に向けた取り組み（権限代行）

○ H29.7.19（水） 新たに創設した権限代行制度を全国で初めて適用し、九州地方整備局は福岡県に代わって赤谷川などの緊急的な河道の確保に向け、土砂や流木の撤去に着手しました。



一級河川 桂川 朝倉市宮野(比良松中学校) 【被災の状況】



平成29年7月九州北部豪雨【応急復旧状況】(赤谷川:国、白木谷川:県)

赤谷川 (上流)



応急復旧

赤谷川 (中流)



応急復旧

白木谷川



応急復旧



応急復旧 (継続)



応急復旧 (継続)



応急復旧 (継続)

流域内に、不安定な状態で堆積している土砂・流木の流出抑制対策が完了するまで、応急復旧工事(河道掘削等)の継続が必要

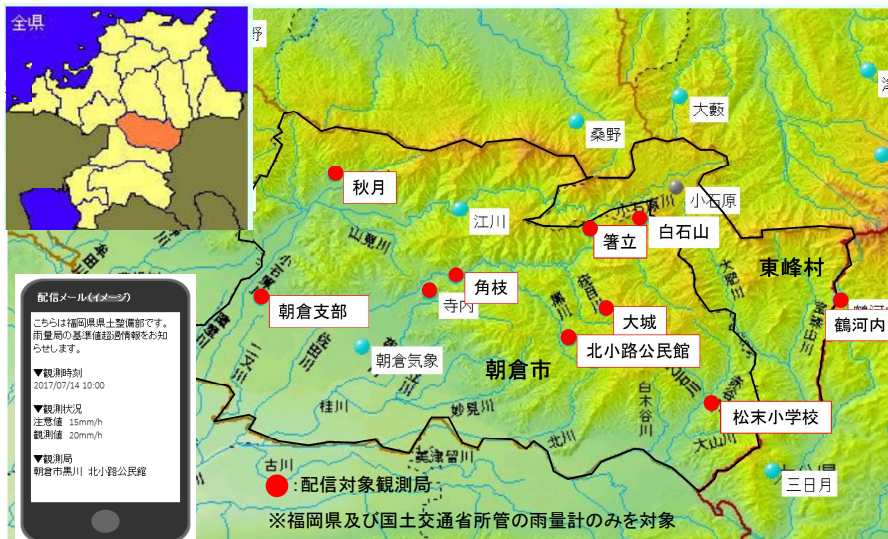
◆降雨による二次被害発生のおそれがあることから、監視体制や住民への情報提供を強化し、早急な水防活動及び住民の適切な避難判断に活用することを目的に、対応を実施中。

- ①雨量情報に関するプッシュ型メール（平成29年7月18日～開始）
- ②簡易監視カメラによる画像を配信（平成29年9月29日～開始）

①雨量情報に関するプッシュ型メール

＜プッシュ型メールの内容＞

- 情報提供の対象：朝倉市・東峰村の関係職員
- 朝倉市・東峰村の地上雨量計（7局）を活用
- 被害をもたらした一連の降雨後において、二次被害が発生しなかった一定程度の降雨（15mm/h）をメール配信の基準と設定
- 配信実績：60回（H29.7.18～H29.10.20）



②簡易監視カメラによる画像

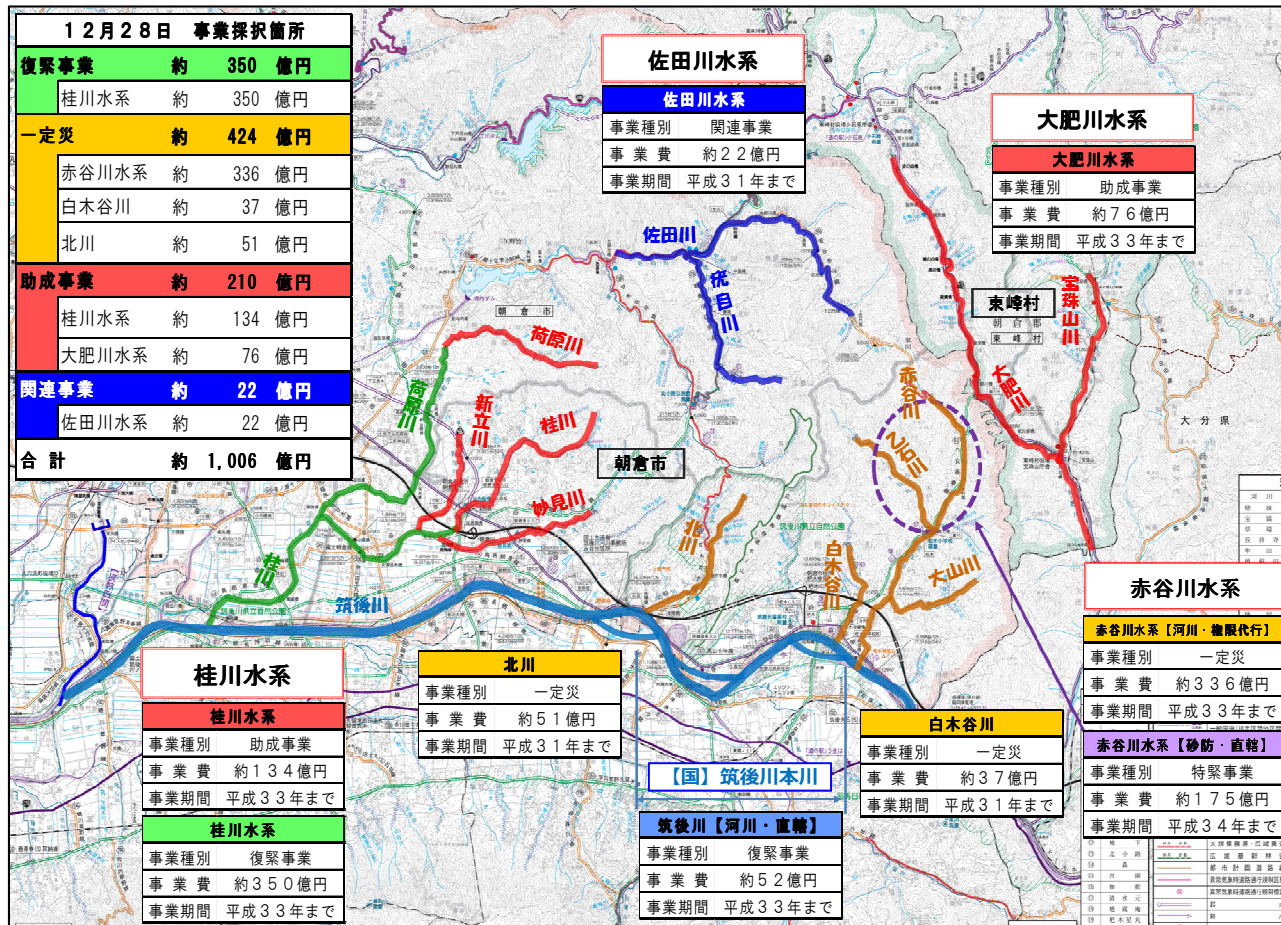
＜簡易監視カメラの内容＞

- 情報提供の対象：行政及び住民（一般公開）
- 朝倉地域において、11河川14箇所を設置
- 10分おきの静止画を河川課HPにて公開
- 河道が閉塞していたこと、今後の復旧工事により河床が大きく変動することを踏まえ、台風期に備え、画像監視による応急的な対応を実施



平成29年7月九州北部豪雨 【河川の改良復旧】

- 再度の災害を防止する観点から、県が強く要望していた改良復旧について、県管理13河川すべてで採択
- 赤谷川水系については、全国で初めてとなる緊急対応の権限代行に引き続き、本復旧についても権限代行が決定



■ 埋塞の著しい施設を「全損」扱い 全国初の制度適用

- 北川、白木谷川、赤谷川・乙石川、大山川

■ 一連区間で埋塞が著しい河川を一定災で採択

埋塞が著しい河川への適用は初
河川の一定災採択は平成23年の東日本大震災以来6年ぶり

- 北川、白木谷川、赤谷川・乙石川・大山川

■ 水系内の支川を一つのまとまりとみなして助成事業を採択

- 桂川水系: 桂川、荷原川、新立川、妙見川
- 大肥川水系: 大肥川、宝珠山川

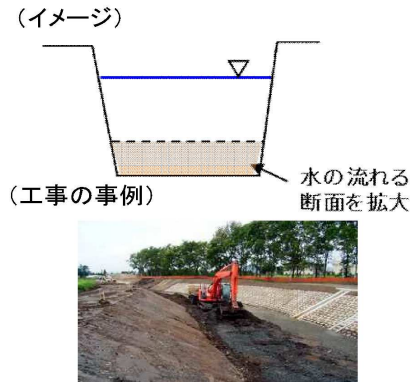
※ 一定災とは

広範囲にわたって被災し、その被災の程度が激甚であり、その被災施設を原形に復旧することが著しく不適当な場合において、被災後の状況に即応する被災箇所を含む区間全体にわたる一定計画のもとに施行する必要最小限度の工事。

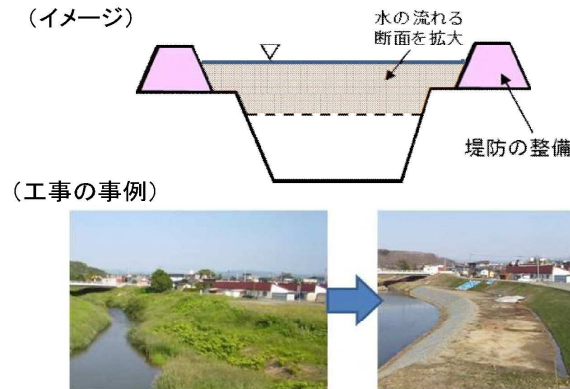
※「関連」とは災害関連事業、「助成」とは災害復旧助成事業、「復緊」とは河川災害復旧等関連緊急事業、「一定災」とは災害復旧（一定災）、「特緊事業」とは特定緊急砂防事業のこと

氾濫を防止する対策

＜河道掘削＞



＜堤防の整備＞



(対策箇所イメージ)



浸水する多数の家屋や市役所



流下能力を向上させ、多数の家屋や重要な施設の浸水被害を解消

危機管理型水位計の設置

＜危機管理型水位計の概要＞

洪水時の水位観測に特化した
小型で低コストの水位計

※従来型の **1/10 以下のコスト**

(100万円/台以下)

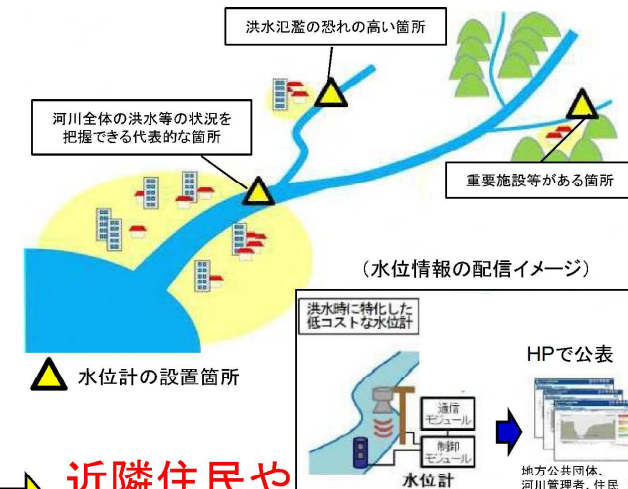
※長期間メンテナンスフリー

(無給電5年以上稼働)



洪水に特化した低コストな水位計の設置例

活用イメージ



近隣住民や要配慮者の避難を支援